

「地域社会のゴミ拾いの活動の  
きっかけ・理由、お喜び、行ったこと」

提出日 2020年3月23日(月)

英語道弟子課程 弟子 H.K.

本レポートにおいて、ご依頼をいただきました。「私が地域社会のごみ拾いを  
行ったきっかけ・理由、および、行ったこと」をお話しさせていただきます。

2020年3月14日 土曜日 時点の内容です。

始めたきっかけ・理由は、いくつかある、と思います。

まず1つ目は、生井利幸先生の 教文です。ずっと、私の根底に、そのことが  
ありました。

コミュニケーションの基本、「目の前の人、隣にいる人を大事にすること」。

そして、「大きいことではなくて、草の根的に、できることをコツコツ 行うこと」。

それから、「自分の体を、自分以外の人のため、(手のことは使わないこと)」。

弟子の清掃活動を行っている中で、銀座書齋入居ビルの周辺のごみを拾うことが  
増えてきました。ごみは散らばっているため、ごみを拾うと その先にもある、という  
具合に、範囲も、拾い量も、多くなっていきます。

それしている中で、自分に対して、疑問が生じてきました。

「今、一生懸命に拾っているけど、銀座だけ 行えばいいの？  
住まい近所は いいの？」

生井先生の「目の前のこと。地域コミュニティから。」という教文が、  
体の中にあります。そこを行わないのは、先生の教文を行っていないことになります。

「今、弟子の清掃活動の一環で、街をきれいにしようとしているけど、  
それは 清掃活動の担当日 だけに 行えばいいことなの？  
学習で来る日は 何もしてなくていいの？ いいわけ、ない……。」

学習の日に、清掃をしないのは、「体を使わず、汗をかかずして、勉強し、  
いい思いだけをしに来ている」というような気持ちになりました。  
楽をしているような気がしたので、か、これについては、即 解決  
解決致しました。電車で来た時は、東銀座馬車の地上から、  
何もせず、ただ歩くだけでなく、通りのごみを拾いながら 歩こう、と 思い、  
そのように 致しました。これが 2つ目のきっかけかな、と思います。

その道りで拾えなければ、銀座書斎での活動を終了後、駅に向かう帰りのときに、ゴミを拾おう、と思い、拾いながら帰りました。

自転車で来たら、少々早めに着いて、ゴミを拾おう、と思いました。

「清掃活動」という理由がなくても、自分の体を使ったからで、ゴミ拾いをする日を、清掃活動の日だけに限定しなくなりました。

あると、枠が外れました。

普段、自転車で通うときに、「昨日も見た、今朝も見た、帰りにモトがある…」と気づく、道路上の放置ゴミ。同じゴミが何日も同じ所に置かれたままであるのを見かけます。それまでは、私は何を考えていたのか…。見て見ぬふりをしていたと思います。先の話で、「枠が外れた」ことで、あることに気がきました。

「誰も拾わないゴミを、私が拾えばいいんだ」と。

銀座書斎周辺で、いつでも拾えるよう、ゴミ袋を常備していました。その袋に入れれば良いのだし、自転車は荷台がありませんので運べるのです。これが30日のきっかけです。

必要なものは揃っているのに、私が拾える。

拾った人が拾えばいい。

人にしてもらいたいと思うことを、私がやればいいんだ、と思いました。

銀座書斎周辺で、ゴミを拾っている時、はじめは、立て付けがあったからやり易かったのだと思います。「今、清掃活動中だから」と。その枠を外したら、「自分自身として何がしたいのか、何をすべきなのか」が、見えてきました。本当は、逆でなければいけない、と思います。

このような経緯から、自転車で通う、“通学路”の道路、花壇、交差点などでゴミを拾いながら、銀座書斎に向かったり、あるいは帰ったりすることに致しました。

“通学路”での行動が決まると、「本当にやりたいこと」が、目と鼻の先にあるんだと気付きました。これが、4つ目のきっかけです。

「本当にやりたいこと」というのは、自宅近所をきれいにすることでした。最初のページに書いた疑問のうちの1つは、この時、解決しました。

私の自宅の目の前に、道路があります。その道は、「神楽坂」という名前の坂道で、端から端まで歩くと15分位要する、長い道なのですが、一年中、多くの人々が訪れており、いつも、たくさんのごみが落ちています。坂道に面して立ち並んでいる、飲食店や食器店、雑貨店が、自店舗前を清掃されてはいませんが、されない場所も多々あり、「いい街だけど、残念だから、何とかしてきれいにする方法は無いだろうか」と考えていた時期がありました。神楽坂をきれいにしたかったというのは、本当に望み、本当にやりたいことでした。

「大それたことができなくても、自分にできることを行えばいいのではないか。朝に、ごみ拾いをしよう。」と思った時、「あ、と、生井先生の教えができるようになった。」と思いました。

「...でもこれ、間違ってるかな。人のためにも、道路のためにもなるはずだから、先生の教えには反してはいけません。」と考えました。

本当にやりたいことの本当を行くと、先生の教えを行うことになるんだと、教わったことを、自分なりの方法で、見出して、「行動する」ということが、先生がお教え続けてくださっているのだ、ということも、自分の体の中で、実感致しました。

「こういうことだった」と思ったのです。「こうやって、教わったことを、自分で考えて、自分の意志で、単独行動として「行かんた。」と。私を、教え導いていただいている先生は、銀座晋菴を本拠地として、普遍的な立ち位置から、人々に対し、本質的なメッセージを発信され、様々な活動を行なっている...私も、弟子として、私自身のミッションを行って、こう、と思いました。

しかし、冷静に考えて、「今さら気付いたのか」と思います。二人は、簡単なことが、目の前にあったのに、と。

もうすでに皆やっていることだから、いちいち知らされなくていいだろう、と  
思いました。私の行いは、「エ!? 今!? 何言ってる人ですか」と言われそうだと  
思いました。

なぜなら、先生の弟子ではない、一般の人で、生井先生に教わらずに、行っている  
人は、もう行っているからで可。最近私は、ゴミを拾って歩いている人を、2人、  
見かけました。1人は、スーツを着た、年上の方で紳士でした。ちよと気になって  
拾った程度のことではなく、袋をもって、拾いながら、す、と歩いていかれました。  
九段下で見かけました。もう1人も、男性で、ゴミ拾い用の赤い色のトングを  
持て、拾っていました。その方は、竹橋にある、皇居のお濠の周辺で  
行っていました。

近年、都心では、企業の実行組みで、「ボランティア活動で「ゴミ拾い」が行われて  
いるのを見ます。同僚と、友人と一緒に、あるいは、集団の中で行うのは  
活動しやすいと思います。

しかし、先の2人は、それぞれが単独行動でした。自然に、地域社会と、  
人々に対する愛の実行を行っていました。自然に行うのが本来なのだ、と  
思いました。一方、私は、生井先生に、実に詳細にご指導を  
いただいている... 12年も前から! それを、今、やる、という。遅すぎます。

最後に、行ったことを書き出します。

3月8日(日) 9:15より Quasi-Ginza sanctuary で学習活動。開始前に、  
東銀座駅～銀座書斎の一本道をゴミ拾い。終了後は、交差点の  
ゴミ拾い。

3月9日(月) 7:15より Quasi-Ginza sanctuary で学習活動のため、5:30に  
自宅を出発。ゴミ拾いしながら銀座書斎へ。10Lのビニール袋が  
ゴミで一杯となり、4つたまる。

3月11日(水) 18:00～21:30に Quasi-Ginza sanctuary での学習活動で、開始前に  
東銀座駅～銀座書斎～昭和通りまでゴミ拾い。駅付近の  
レストランの方より、お礼を言われた。又、昭和通り付近にお住まいの方  
より、お礼を言われ、替え布数枚付きのマスクを頂いた。21:30以降は、  
銀座エロエ通り～昭和通り～宝町駅～有楽町と東京駅の間～  
東京駅前～丸の内～皇居～竹橋～九段下～飯田橋のルートを  
徒歩にて、2時間、ゴミ拾い。45L袋が満杯。

3月12日(木) 4:00より1時間半、自宅近所のゴミ拾い。袋が足りなくなり、終了。  
 3月13日(金) 6:00より1時間強、前日に行えなかった所まで行き、坂を歩いてゴミ拾い。

改めて感じたことは、ゴミを拾ったからといって、達成感や充実感、そして、良い事をした、という気持ちか全然湧いてこなかった、という事です。  
 「勉強して、教わったことを行うだけだ」という気持ちだけがありません。  
 そうして生きることもできる、と。

勉強するのは大事だけど、行動するのはもっと大事だ、と思いました。では、行動だけしてれば良いか、という、そうではなく、勉強も、行動も、両方をたくさん行う必要がある、と思いました。

(2年も前から頂いているご指導を、今行う、というのは、人として身心ずかしいことだと思っています。「あの人達、自然に行っていた…」と、見かけた2人の男性のことを何度も思い出しました。

今と前ではゴミを拾えます。それまでは、「たくさん落ちてるな…」と見て終わりでしたし、拾おうとさえ思わなかったときもあり、誰かが拾ってくれる、と、思っていました。

いずれのときも、自分で自分を邪魔していました。自分の心を汚しているのも、自分でした。心がきれいな人は、すでに歩いていましたし、街をきれいにしていましたし、自分の体を、ほかのことに使っていました。

今の私の行動に至るまでに、ほかからも影響されていたことを思い出します。2月に、特別稽古を受講前の3分で一通りのゴミを拾ったとき、体を使うと、自分が無になるのがわかりました。その数日前までは「拾わなきゃいけないゴミがそこにある。けど、人がいるから拾うのは」と思ったり、「身心ずかしいな」と思うことがありました。でも、すでに、行っている人がいますので、「どのような心で、そうしているのか？」と想像すると、その人の姿は、勇気を与えてくれました。それも、私の「秤」を外す一つになったと思います。

行動するのに、「理由や立て付けが先にある。だから、行う。」というのは、先生のご指導にはなれないので、いけないことだと思っています。そのため、非常に

遅すぎますが、望むことを素直に行いたい、と自分の中から見出したことだけは、  
よかったと思います。素直に望まない時に、「理由を立付けてあげて、だから、  
行こう。」というのは、自分の自己中心的エゴの塊です。それを美感致しました。

二二までが、3月14日時点での私の活動のきっかけと行ったこと、です。  
読み返してわかりましたが、非常に身軽なことを書いております。ですが、  
一切、飾ることはなく、経験したことをそのまま書き出し、その時、感じたことを  
そのまま、書かせていただいております。

このたびは、レポートを作成する機会を賜りまして、  
ありがとうございます。